

2024年度 JICA沖縄

教師海外研修

報告書&ワークショップ集

(研修国：パラオ共和国)



主催：JICA沖縄 後援：沖縄県教育委員会
実施：公益社団法人青年海外協力協会 沖縄事務所

目次

第1章	研修概要	
1-1	研修概要	02
1-2	派遣国概要	04
1-3	参加教員	06
第2章	実施報告	
2-1	事前研修	08
2-2	海外研修スケジュール	12
2-3	海外研修	13
2-4	事後研修	22
2-5	研修を終えて	25
第3章	ワークショップ集	27
3-1	パラオと沖縄 小学校チーム：導入編 「パラオと日本・沖縄の“オソロイ”を通して、 自分と世界とのつながりを考える」 —小橋川利奈教諭（竹富町立鳩間小学校）	28
3-2	パラオと沖縄 小学校チーム：展開編① 「パラオの言語文化を通して、 沖縄のたから”しまくとぅば”を伝える」 —大城莉子教諭（沖縄市立宮里小学校）	36
3-3	沖縄のために自分ができること 小学校チーム：展開編② 「パラオの人材流出の課題を通して、 沖縄のために自分ができることは何か考える」 —島津侑実教諭（那覇市立安謝小学校）	38
3-4	パラオで活躍する日本人から学ぼう 「パラオにいる日本人の活躍を知ることを通して、 自分の好きなことや興味があることは 自分の人生や国を変える力をもっていることを伝える」 —仲松友美教諭（西原町立西原中学校）	44
3-5	パラオがもし100人の村だったら 「『100人村ワークショップ』を通して、 持続可能な未来を考える」 —當銘絵里香教諭（糸満市立高嶺中学校）	58
3-6	パラオから理想の社会づくりについて考える 「パラオの実情や課題を通して、 理想の社会づくりについて考察することを伝える」 —平田真弓教諭（沖縄県立那覇高等学校）	70
<付属資料>		
1.	新聞連載「パラオで発見！教育の種」	79



第1章

[実施概要]

1 - 1 研修概要

▶ 教師海外研修とは

JICAの各国内拠点ごとに所管する都道府県教育委員会と協力し実施している、講義・ワークショップ・フィールドワークを中心とした研修プログラムです。開発途上国を訪問し、国際協力事業やJICA海外協力隊の活動現場の視察、現地の児童・生徒との交流などを体験し、帰国後視察で得た知識や経験をもとに、参加型学習教材（ワークショップ）を作成し、学校現場で実践します。

▶ 研修のゴール

地域（日本・沖縄）の特性を活かして、
地元企業や自治体等が実践する **国際協力について理解を深める。**

研修で得た知識や経験をもとに、

参加型学習教材（ワークショップ）を作成し、実践する。

▶ 汎用性の高い授業案・教材を作成し、報告書に掲載します。

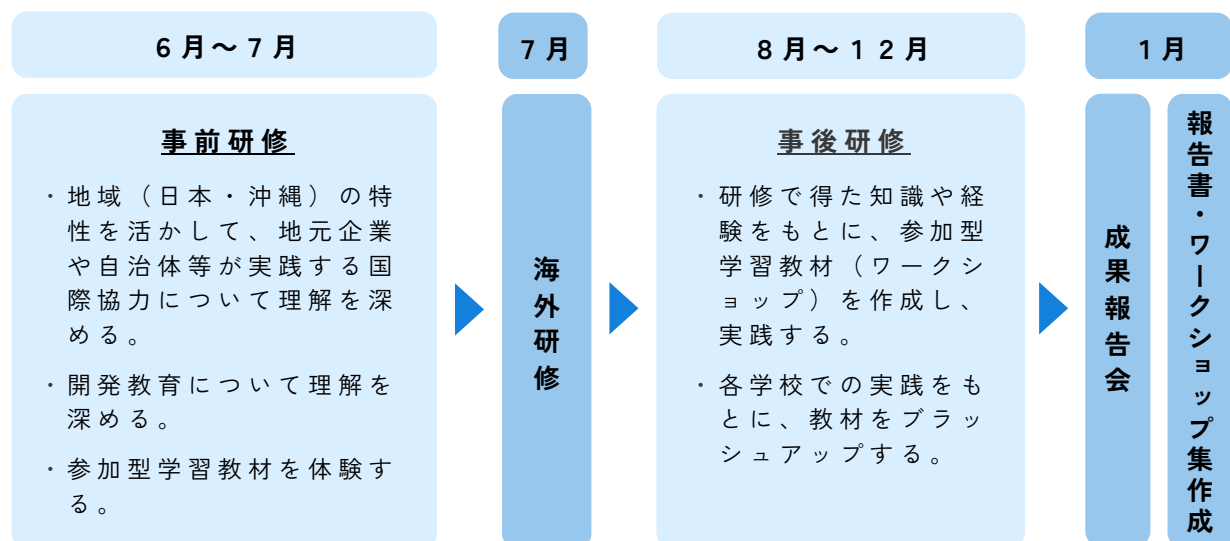
▶ 派遣国：パラオ共和国

パラオ共和国は沖縄県と歴史的に深いつながりがあり、日本の委任統治下にあった1942年には約1万3千人もの沖縄県出身者が在住していました。現在においても水産業や環境保全・調査研究等で緊密な関係があります。JICA沖縄でも水産業や廃棄物管理、エコツーリズムの分野において協力しています。

2022年8月には、友好関係の教科と双方が有する資源や技術を活用し、島しょ地域の共通課題に協働して取り組むことを目指した覚書（MOU）を締結しました。

▶ 学習プログラム

本研修は、①事前研修、②海外研修（パラオ）、③事後研修（教材作成）、④成果報告会の4つからなります。



	日 時	内 容	
事前研修	6月15日(土) 9:30-12:30	第1回 事前研修	・オリエンテーション ・チームビルディング
	7月2日(火) 16:00-17:00 ※オンライン		・パラオにおけるJICA事業概要 ・授業実践を行う学校の隊員と顔合わせ
	7月13日(土) 10:00-16:00	第2回 事前研修	・国際理解・開発教育について ・開発教育ワークショップ体験 ※国際理解・開発教育指導者養成講座と合同開催
	7月20日(土) 10:00-16:00	第3回 事前研修	・開発教育ワークショップ体験 (過年度教師海外研修参加者作成教材) ・教材作成(10分ワークショップ)について ※国際理解・開発教育指導者養成講座と合同開催
	7月21日(日) 10:00-12:30		・国際協力事例講義 パラオ北部沿岸漁業組合における回遊魚(カツオ・マグロ類) の漁獲技術向上と水産物の加工販売を通じた組織強化事業
海外研修	7月22日(月) 8月1日(木)	海外研修 パラオ	・JICAプロジェクト(ベラウ・エコ・グラスなど) ・NGO(ピースウィンズ・ジャパンなど) ・JICA海外協力隊活動視察(学校訪問など) ・その他(ペリリュー島、県系人交流など)
事後研修	8月5日(月) 10:00-16:00	第1回 事後研修	・海外研修の振り返り ・ワークショップ作成 ・県教育庁報告会準備
	8月21日(水) 10:00-12:00	沖縄県教育長表敬訪問、帰国報告会	
	9月~11月	各自、学校での授業などでワークショップ実践	
	11月24日(日)	おきなわ国際協力・交流フェスティバルへのブース出展 ・海外研修結果や実践進捗の発表 ・ワークショップの実践	
	12月14日(土) 10:00-15:30	第2回 事後研修	・ワークショップのブラッシュアップ ・実施報告書の作成 ・成果報告会の準備
報告会	1月18日(土) 10:00-12:30	第3回 事後研修	成果報告会 ・海外研修報告 ・ワークショップ実践

1 - 2 派遣国概要

パラオ共和国 (REPUBLIC OF PALAU)



写真提供：鈴木革／JICA

首都 マルキョク（2006年10月、コロールより遷都）

人口 18,050人（2022年、世界銀行） ※在留邦人275人（2024年9月現在）

面積 488平方キロメートル（日本の屋久島とほぼ同じ広さ）

国旗 デザインは海を表すブルーを背景に中央からやや左寄りに満月を表す黄金色の円。
平和と静寂、海と陸の豊饒を表している。



気候 海洋性熱帯気候で、高温多湿。
雨期・・・5月～10月 乾期・・・11月～4月(乾期でもスコール性の雨が多い)
平均年間降雨量・・・3,626.4mm(2021年の平均)
平均気温・・・28度 平均湿度・・・83%
(2021年：Time and Date)

言語 パラオ語、英語（ともに公用語）

民族 ミクロネシア系

宗教 キリスト教

通貨 米ドル

主要産業 観光業

教育制度 パラオの義務教育は、小学校（1年生から8年生）と高校（1年生から4年生）で、卒業後多くの学生が国内唯一のパラオ短期大学に進学します。
小学校は全国に17校あり、高校は5校あります。

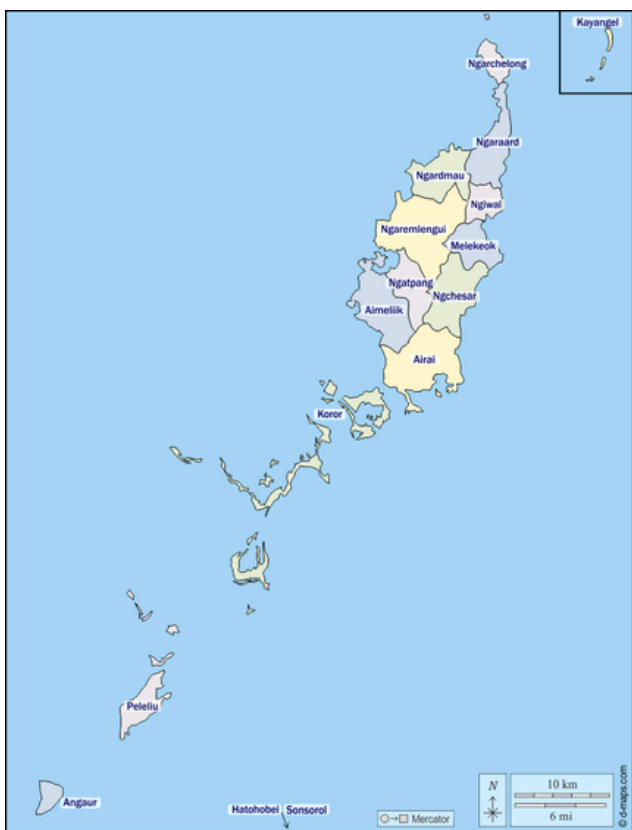


出典：外務省、パラオ共和国
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/palau/data.html> (参照:2025-1)
在パラオ日本大使館、パラオ共和国案内
https://www.palau.emb-japan.go.jp/itpr_ja/about_Palau.html (参照:2025-1)
Ministry of Education, Republic of Palau. Schools
<http://www.palaumoe.net/?p=Schools> (参照:2025-1)



写真提供：鈴木革／JICA

現地訪問先



https://d-maps.com/carte.php?num_car=28018&lang=ja

ニワール州

- ・ニワール州保護区域ネットワーク（エコツアー）

ガッパン州

- ・モデグゲイ高等学校

アイメリーク州

- ・アイメリーク小学校
- ・アイメリーク州廃棄物処理場

コロール州

- ・在パラオ日本大使館
- ・JICAパラオ事務所
- ・特定非営利法人ピースウィンズ・ジャパン
- ・パラオ国立博物館
- ・環境配慮型交通システム整備プロジェクト
- ・コロール州廃棄物管理事務所/ペラウ・エコ・グラス
- ・パラオ国際サンゴ礁センター（PICRC）
- ・パラオ高等学校
- ・日本地雷処理を支援する会（JMAS）

ペリリュー州

- ・ペリリュー島

1 - 3 参加教員

垣花拓実

同行者（JOCA沖縄）

大城莉子

沖縄市立宮里小学校

當銘絵里香

糸満市立高嶺中学校
英語科



島津侑実

那覇市立安謝小学校

平田真弓

沖縄県立那覇高等学校
地歴公民科

仲松友美

西原町立西原中学校
英語科

小橋川利奈

竹富町立鳩間小学校